

「魔の6月」の話

2021・6・24 校長 重枝一郎

学校生活を1年間というスパンで見ると、学級の雰囲気が悪くなる危機が起こりやすい月というのがあります。それは、6月と11月です。これは、「魔の6月」、「11月危機」という異名をもちます。6月の場合、その後1か月ほどで1ヶ月強の夏休みということもあり、先生も生徒もいったんリセットした上で2学期の始業式を迎えることができるので、V字回復する確率は高くなることもあります。11月の場合、V字回復するためのリセット期間が短く、11月に学級が危機に陥ると、そこからV字回復することはかなり難しいということになります。この2学期は「行事の秋」といわれるように大きな行事があります。それに、熱意をもって取り組むことはとても大切なことです。ところが、目に見える目標がもてなくなったときに、一気に学級が落ち着かなくなります。これは、よく小学生に見られる事象です。ところが、小学生は、なかなか自分たちの意識を高くもって乗り越えることが難しい発達段階でもあります。しかし、中高生は、そのような経験を生かすも殺すも、段階的に成長した自分たち次第であり、それを試されるのが中高生であるということを理解しなくてはなりません。中高生の君たちには“自己管理能力”という力が備わっているはずなのです。そして、この「魔の6月」「11月危機」は、突然、危機になったりはしません。少しずつ進行していくものなのです。

行事等で自分たちのやるべきことが明確になっているときは、一見クラスはまとまっているように見えます。でも、もしかしたら、その裏では当たり前のことが疎かになっている場合があります。

ちょっと再チェックしてみましょう。

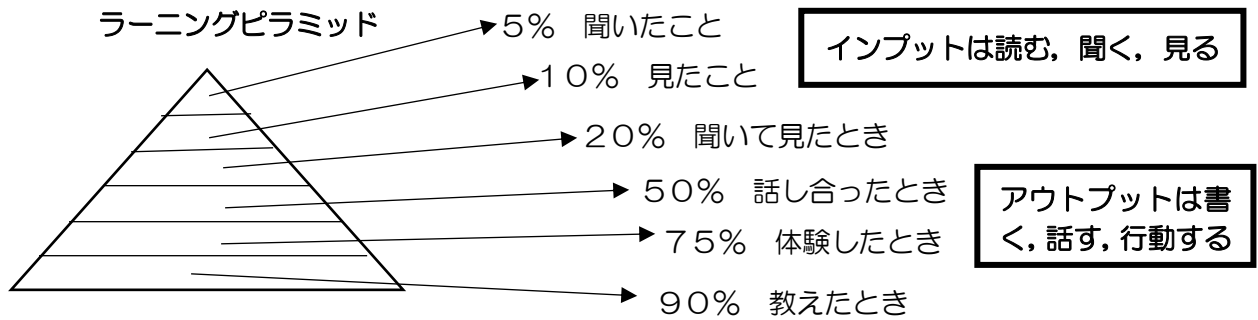
- 教室にごみが落ちている。
- 椅子が出ている。机の上が散らかっている。
- 授業が始まって、しばらくしないと集中できない。
- 姿勢が悪い人が増えている。
- ノートやプリントの字や扱いが雑になっている。
- 忘れ物が増える。
- ケガが多くなる。
- 先生の指示が通らない。
- 友だちへの配慮ができない人が増える。
- 友だちと嫌な感じの目くばせをする人が増える。
- 友だちにきつく注意をする人が増える。
- 立場の弱い人に対して強く当たる。
- 掃除の取組が弱くなる。
- 人の陰口を言う人が増える。

これらの項目のうち一つでも当てはまることがあれば要注意です。予兆が自覚できたら、今すぐ、もう一人の自分が、自分に命令してください。「自分の成長とチームの成長をしっかり考えて、行動しよう!!」と。

小さな頑張りでも、みんなの力が合わされば「私たちはやれる“かもしれない”」と思うようになります。そして、身近な隣のクラスや身近な部活ができていたら「私たち“も”やれる」と思うようになります。このメンバーはすごいと言われるようになったら「私たち“は”やれる」という困難を乗り越える力を身に付けることができます。

今日も、みんなで、チームとして結果を出そう。

■ ミッションアクティブ・ラーニングとは



※アウトプットの後には必ずフィードバック

※アウトプット前提で! ※インプットとアウトプットは表裏一体

■ 主体性と相互作用のある学びの場

「授業の基礎的条件」が不可欠

授業を実現するための条件は、下図に示すように「基礎的条件」と「内容的条件」の表裏一体型といえる。「基礎的条件」は授業の目標や内容、方法についての考え方や形式にほとんど関係なく、すべての授業に常に要求される条件である。その条件の適否は学習の雰囲気、学習の規律、そして肯定的な人間関係に支えられている。

